

令和2年12月 上市町教育委員会 定例会

当面の教育課題について 議事録

(教育長)

富山市教育委員会が基本方針を定めた。適正規模(文科省の標準規模である12～18級)に達しない学校として、小学校全65校のうち38校、中学校全26のうち9校となっており、その中でも早期に適正化を検討する対象として小学校28校、中学校2校が挙げられている。

上市では、上市中央小以外は全て単級となっている。富山市でも1学年に複数のクラスがある学校は限られている。新川地区においても同様の形で統合をしてきたが、更に児童数は減っており、いずれ単級となる。

これまで新川地区では統合、立山町では校舎は新築せず、廃校としてきた。富山市がどういう方向で持っていくのか(義務教育学校など)を注視していく必要がある。

地域性を考えながら、どう学校を担保していくのか大きな課題である。国では小学校35人学級との方向を示したが、上市ではほとんど関係がない、これからの出生状況を踏まえどうしていくのか、考えていかなければならない。上市モデルが必要かどうか、色々ご意見をいただきたい。

[小学校の適正規模等について]

(委員)

町の広さがコンパクトであることは幸いである。何もかもが流動的な中で、基本的な規模見たいものを示せるのか、難しいところである。国が示すような規模にするとしたら、色々無駄もでる。基盤となる学校というものが、住民の方にとってどう映るのか。通学距離については、他市町村よりもまだ条件は良いのではないか。

(教育長)

仮に町内1校とした場合はバス通学に相当の費用を要することも考えなければならない。

(委員)

3月には町民への説明とのことである。ここで方向性が見えてくるのだろうか。できるだけ統合は先に延ばすことが望ましいと思う。コロナ禍の中で心の問題など、少人数ならではの、上市の規模だからできることがある。

富山市にしても単純にできるわけではない。このことを見越してか市町村合併前に校舎を立て直した地区もある。

(委員)

上市も統合していくということで進めていくということなのか。意見をと言われると、統合して欲しくないとなる。学校が無くなる所に子どもを住ませたくないとなる。現状として、

統合せざるを得ないというところで意見をまとめるのか。そのところがはっきりしないと、意見が出しづらい。

(教育長)

前回までは出来る限り現状維持との思いでいたが、現状の出生数を見るとそうとも言えなくなった。複式学級となると町単の講師となるが、確保が出来づらい状況にある。私としては条件付きで考えている。場合によっては新しい環境を作ることも必要ではないかと悩み始めている。

(委員)

コロナが終わっても人口は急には増えない。町としての戦略的なものがなければならない。統合せざるを得ないということを前提にしないと、会議の中身が決まらない。

(教育長)

将来を見通して段階的に、途中のチェックを入れながら進めていく。必要があるか、これしかないという言い方はしない。基本的には地域に学校は必要であるが、状況によっての選択肢を提示していく。

メリット・デメリットが必ずあるので、それを提示する。統合の後がどうなのかを考えてみる必要がある。

(委員)

他市町村の状況を参考に方針は決めるが、出来るだけ延ばして、1年でも長く現状を続けるべきである。色々な意見を吸い上げる、意見が出しやすい雰囲気を作ることが大切である。最後まで教育にお金を掛けるべきである。

(委員)

足並みを人と揃える必要はないのではないか。平均から外れたらアウトという生き方はないということを示していけないか。自信をもって進む方向、在り方を流されずに詰めていくべきではないか。

(教育長)

周囲が進めようとしているものとは違った「上市スタイル」を考えていきたい。どういう条件、学校の在り方を考えていくのか、どう対応するのかのチェックポイントを決めていきたい。

[教員の人事交流等]

(教育長)

人事異動が難しい状況にある。特に富山市との間では難しい。上市町で働きたいと思ってもらえるように、教員が安心して働ける環境を整えていくしかない。学校が複数ないと、町内での人事交流が出来なくなる。人事面では非常に大きいことである。人事が停滞しないように、人事の形を変えなければならない。